

【 果 樹 】

柑橘類は減少しているが、リンゴ等他品目の入荷が増えたことから、果実全体の入荷量は横ばいで推移している。

果実全般でダラダラとした入荷が続いているが、末端消費も活発ではなく、日々落ち着いた販売が続いている。

干し柿類も現状過不足の無い販売が続くが、今後は更なる減少が見込まれることから、相場を底上げしながらの販売となる見通し。

<あんぽ柿>

京浜（大田）市場では、全体の入荷量は漸減しているものの、売場縮小に伴い、売り先からの注文も落ちていることから過不足の無い販売となっており、相場は保合となっている。

関西市場では、競売での動きは落ち着いているものの、主要な売り先からは安定した注文が見られる状況で、保合相場となっている。

「蜂屋柿 230gトレイ」 @特秀 4L 400 ~ 380 円

【 野 菜 】

野菜全般でみると入荷量は概ね横ばい推移だが、天候回復から「ほうれん草」をはじめ葉物類全般に増量となり相場を弱める販売となった。

果菜類は、燃料の焚き渋りなどの影響もあり、極端な増量は見られず相場変動は小さくなった。

「ねぎ」「白菜」については、茨城県産が「レタス」の収穫作業に入ったため入荷が落ち着き、過不足ない販売となっている。

今後は、量販店での鍋商材から春商材への売場切り替えが進む見通し。

<いちご>

近在産中心に3番果の増量が見込まれたものの、先週の寒波が影響し入荷量は概ね横ばいでの推移となった。今後は、出荷動向を見ながら慎重な販売となる見通しから、保合相場展開を見込んでいる。

@2L 450 ~ 430 円 A 370 ~ 350 円

<に ら>

北海道市場は道内産の増量が見込まれ、京浜市場は現状在庫を抱えながらの販売となっており、入荷も横ばいとなる見込みから相場をさらに弱める見通しとなっている。

@A L 90 円 ~ 70 円

<春 菊>

関東産・東北産は、2月末切り上がりとなる生産者もいることから徐々に入荷量の減少を見込んでいるが、気温上昇の予報から引き続き荷動きを止めないよう相場を弱めながらの販売となる見通し。

@A 100 円 ~ 70 円